

平戸市立中野小学校 研究構想図

学校教育目標

「ふるさとを愛し、夢と誇りをもって心豊かにたくましく生きる児童」の育成
～行きたい学校 帰りたい家庭 住みたい地域～

校訓

なかよく かしこく たくましく

N なかよく
対話を通して自他の可能性を
広げる児童

K かしこく
主体的に学び、学びを
広げようとする児童

T たくましく
課題の解決に向けて最後まで
力を尽くす児童

【児童の実態】

- 与えられた課題に進んで取り組むことができる。
- △自ら課題を見つける、最後までねばり強く取り組むなど、主体的に学びに向かう力が弱い。
- 友達に自分の考えを伝えることができる。
- △友達の学びを自分の学びに生かす力が弱い。

【教師の願い】

- ・自ら課題を見つけ、解決までを見通し、学びを深めていってほしい。
- ・時間いっぱい納得いくまで考え、自分なりの考えをまとめてほしい。
- ・友達の考えに触れ、自分の考えを深めてほしい。

研究主題

他者とつながり高め合う児童の育成
～算数科における協働的な学びの充実を通して～

☆本校における協働的な学びとは・・・

「他者との対話や相互作用を通して思考を深め、知識を再構成する学習過程」とする。

研究仮説

支持的風土のある学級づくりを基盤とし、児童を主体とした対話的な学習展開の工夫や多様な他者と関わる教育活動の展開を図ることで、粘り強く取り組んだり考えを高め合ったりすることができるようになるであろう。

支持的風土の醸成

- 毎月学級経営についての共通理解を図り、計画的な学級経営と指導的評価活動を重ねることで、支持的風土を構築することができるであろう。
- 児童のよさや頑張りを認める環境整備を行うことで、児童の心理的安全性を構築することができるであろう。

- 月ごとにテーマを設定
 - ・各種アンケートによる実態把握
 - ・研究通信による共通理解
 - ・振り返りの充実
- 心理的安全性の保障
 - ・構成的グループエンカウンターの実施
 - ・フォトギャラリーNakano

児童を主体とした対話的な学習展開の工夫

- 思考する必然性に出合う課題を設定し、児童に学びを委ねる学習展開にすることで、児童は主体的に学びを深めていくことができるであろう。
- 協働的な学びを支える環境を整えることで、つまずきを起点に学びを再度深めていくことができるであろう。

- 児童の学びに即した授業づくり
 - ・学級の実態に応じたカリキュラムマネジメント
 - ・子供が挑戦・追求できる課題の設定と実態に合った資料の用意
 - ・他者とつながって学ぶ学習形態の常態化
 - ・「みる」「きく」「つなぐ」を意識した教師の関わり
 - 基礎基本の定着
 - ・ミニテストやスキルタイムの活用
 - ・学年に応じた自学の充実

多様な他者と関わる教育活動の展開

- 同学年や他学年、地域の方々、専門家との交流の中で場に応じた関わり方を学ぶことで、社会性対応力が育成され、多様な人々と協働して課題を解決しようとする姿勢を身につけることができるであろう。

- 同学年、異学年での交流
 - ・複式授業の工夫
 - ・縦割り掃除、縦割り遊び
 - ・小中合同運動会や集団宿泊の行事等の各行事における交流
 - ・ナイスリレーの取組
- 地域との交流体験の充実
 - ・ふるさと学習
 - ・球技、相撲大会、挨拶運動 (PTA、健全育成会)
 - ・ふれあい教室
 - ・まちづくり運営協議会)